

I think that the Japanese people are very friendly, and particularly when they come to the United States, they are perceived as being friendly and open. And people, once they engage in conversation, get a good feeling with talking to Japanese people.

日本の方はとても親しみやすく、特にアメリカにこられると、とても親しみやすくオープンだと見られていると思います。で、皆、いったん直接話をしてみると、日本人と話すことに好印象を持ちますね。

particularly 特に

口ジック 「日本の人はとても親しみやすいと思う」と大きくくってメインポイントを述べた後、particularly when ... 「特に ... とき、特に ... な場合」とより具体的な場面を挙げて、詳しく説明してくれています。

to be perceived asと見られる

慣用表現 to perceive...のコアの意味は、「1つの基点からものごとを見て認識する」感いです。そこから「...と知覚する」、「...と理解する」、「...と見る」のような意味になります。

once ... いったん...すると

慣用表現 once ..., で「一度 ... しさえすれば、~になる」、「いったん~すれば、~なる」の意味で使います。

to engage in conversation 会話に参加する、話をする

慣用表現 to engage は、コアの意味は「関わりあいを持つ(自動詞)」、「関わらせる(他動詞)」で、自動詞/他動詞両方で使われます。「切り離す」、「無関心でいる」、「距離を置く」ことの反対として、通常、非常にプラスのニュアンスを持って使われます。to engage in conversation 「会話に関わる」ということですから、「会話に参加する、話をする」という意味になります。

to get a good feeling ofに対して好印象を持つ

慣用表現 この feeling は「(受ける)印象、感じ」の意味で使われています。

Sometimes your language ability makes it more challenging, more difficult to get to know a Japanese person.

ただ、ときに、皆さんの語学力ゆえに、日本人の方と本当に親しくなるのが難しい、苦労するということが出てきます。

sometimes ただ、ときに ...

口ジック 日本人のプラス面を話してくれた後、日本人の弱点に移るときの転換です。「ただ、ときにこういうこともある」という言い方によって、「現状でも十分好感を持たれている。ただ、ときにこういうマイナス面が出てくる」という、全体像の中でのフィードバックのバランスを示してくれています。

challenging 難しい、苦労する

やまと言葉 「...に対して、力を証明することを迫る」ことが to challenge ... のコアの意味ですから、その形容詞 challenging は、「力を証明してみてよ、と迫ってくるような」というのがコアの意味です。そこから、「難しい、苦労する」のような意味で使われます。ちなみに、「力を証明してみてよ」と迫られるという意味では、challenging は、「大変である」、「難しい」という感じなのですが、でも同時に、「それを乗り越えればプラスにつながる」という前向きな響きも備わっています。プラスの響きがくっついた「大変である」、「難しい」であるため、好んで使われる言葉です。

to makes it more challenging それにもっと苦労する

文法 it は to get to know...以下を指します。it 「それを」と仮で目的語を置いておいて、後ろから to 以下によって説明してくれるかたちです。加えてここは、モノが主語になっていて、直訳的には「your language ability がそれをもっと難しくする」ようになるため、聞き取りで混乱しやすいかたちでもあります。対策としては、make は「~にする」という意味ですから、make の前を、「原因」、後ろをその

「結果」という意識で聴くことができるようにしておきましょう。このようなかたちの文でも意味がすっきりと入ってきやすくなります。「語学力ゆえに [原因] それに苦労するわけですよ [結果] 」のように理解します。その上で、it を後ろで楽しみに待つ感覚で、「(で、それって)日本の方と本当に親しくなるってことにね」と理解します。

to get to know A Aをよく知るようになる、親しくなる

慣用表現 「表面的でないレベルでその人について知る」という感覚で、そこから、「表面的に知っている」レベルから関係を深めて「その人がどんな人なのか」をもっとよく知り、親しくなることを言います。

And one of the things that I encourage the Japanese team associates who come here is to participate not only in work, but in some type of a community activity;

ここで、私がこちらに来られる日本人社員の方にすすめていることのひとつが、仕事だけでなく、何かの地域社会の活動に参加することです。

one of the things that I encourageにすすめていることのひとつが

パターン表現 お馴染みの「the things + 修飾節」のかたちですね。one of the things と来たら、ほとんどの場合英語では、どんな things なのかを説明してくれる情報が後ろから節で足されてきます。それを楽しみに待つ感覚と、「one of the things + 詳しい情報！」で、一単語感覚で意味を処理する感覚を自分のものにすることが、聞き取り力の大きなプラスになります。

やまと言葉 to encourage のコアは「勇気を入れる、与える」の意味で、そこから「促す」、「励ます」、「自信を与える」のような意味になります。to encourage 人 to ... で「(人)が ~するのを、気持ちの上で‘やっごらんよ’と後押しする感じ」です。

ロジック フィードバックのパターンとしてよくある流れですが、問題点の指摘から、すぐ具体的なアドバイスに移る流れになっています。上述の通り、to encourage 人 to で「‘やっごらんよ’と後押ししてくれる」意味ですから、one of the things I encourage the Japanese team associates...「日本人社員に勧めていることのひとつが」で、「要は“アドバイスしたいのは”ってことだな」というエッセンスをしっかりとらえ、「ここから具体的なアドバイスを言ってくれるぞ」と後ろを待ちます。

a team associate 社員

慣用表現 「従業員、社員」など、その会社で働いている人のことを、「共通の目的を持つ仲間」という意味の associate を使ってこのように呼ぶことが増えてきています。

whether that's in your child's soccer games; whether that's attending some of the walkathons; whether that's going to paint a house with a group of people in a shelter that needs a house painted.

お子さんのサッカーの試合でもいいです。ウォーカソンに参加するもよし。ペンキ塗りが必要な家のあるシェルターで、その人たちとペンキ塗りをしに行くのもいいです。

whether that's ...

パターン表現 「それが...であろうと、そうでなかつたら」「それが...であろうと、それ以外であろう」というのがもともとの意味です。そこから「他に色々あり得るから何でもよいのだけれど」という感じで、「例えば、A でもいいし...」と自分の頭の中に浮かんできた例を挙げていくようなときに使われる表現です。

ロジック 直前に述べた「地域社会の活動に参加すること」という具体的なアドバイスに対して具体的な説明を加えてくれています。whether that's...が、「...でもいいし... ...でもいいし」と具体的な例を挙げてくれる際の「旗印」表現として、聞き取りの際にヒントになります。「地域社会の活動」と言っても色々ありえる、そういう場合、このように具体的なものを挙げて、サポートしてくれていることがよくあります。

to attendに参加する、出席する

walkathons 慈善運動の募金活動などのための長距離歩行（“マラソン”にかけた表現）

a shelter いろいろな困難を抱えた人が非難するための宿泊所、シェルター

Participate and engage yourself in the community, and get to know the Americans more than just at work.

とにかく、地域社会に自ら参加し、関わってってください。そして、職場だけでなくアメリカ人と親しくなってください。

engage yourself inに自分自身を関わらせる ... に関わる

やまと言葉 engage のコアは上述の通り。to engage yourself in ... で、「自分自身を ... に関わらせる」ということですから、「自ら ... に関わる」、「自発的に ... に関わる」のような意味になります。

to get to know A more than just at work 職場だけでなく、A と親しくなる

慣用表現 to get to know A more than just at work 「仕事の場を超えて A と親しくなる」ということですから、仕事という限られた場面だけでその人を知るレベルに留まるのではなく、趣味、家族など、仕事以外の面でも、その人のいろいろなことをより深く知る、ということの意味をしています。

And when that happens, then a relationship begins to be built that is more than just at work. It becomes friendships.

で、これができると、初めて職場を越えた人間関係が築かれはじめます。本当の友情になるのです。

When that happens, ... ことができると...

ロジック When that happens, ~ 「これができると、~ になります」といういい方で、< 利点 > を説明してくれています。

a relationship ... that is more than just at work 職場を越えた人間関係

パターン表現 少し文の構造が分かりにくいですが、that is more than just at work は a relationship にかかります。このように、a relationship と名詞が来た後、すぐにそれを説明する修飾節が来ないで、a relationship begins to be built と述語動詞、目的語と続いた後、ようやく a relationship を説明する修飾節がくる場合もあります。慣れておきましょう。

And many, many of our Americans have good friendships with our counterparts in Japan, that are going to be lifelong friendships, because those Japanese individuals took the time to engage themselves in people's lives outside of work.

で、たくさんのたくさんの当社のアメリカ人も日本側の人たちと生涯にわたる、素晴らしい友人関係を築いています。なぜなら、こうした日本人の方々が仕事を離れて人々の生活に自分から関わっていく、そういうことを時間をとってやったからなんです。

counterparts 違うグループで、同じ立場にある人

慣用表現 在米企業で働くアメリカ人と組んで、同じ立場で働く役割として日本から赴任してきている日本人赴任者を指します。

lifelong 生涯にわたる、一生続く

慣用表現 lifelong friendship は、仕事で関わりがあった時期など一時期だけで終わってしまう関係ではなく、その後も変わらず、長く続いていくような友人関係を指します。

to take the time to ... 時間をとって(しっかりと)やる

慣用表現 to take the time to ... で to 以下のことを「時間をとってやる」という意味です。to 以下のことを「物理的に時間をとってやる」だけでなく、「しっかりとやる」、「きちんとやる」という意味も含まれます。